

最近の古紙輸出状況について（中国における古紙事情等）

1. 古紙輸出量の推移

- 最近 10 年の古紙輸出を品種別にみると 2000 年以降、いずれの品種についても伸びているが、特に新聞・雑誌と段ボールの増加が顕著である

(千トン)

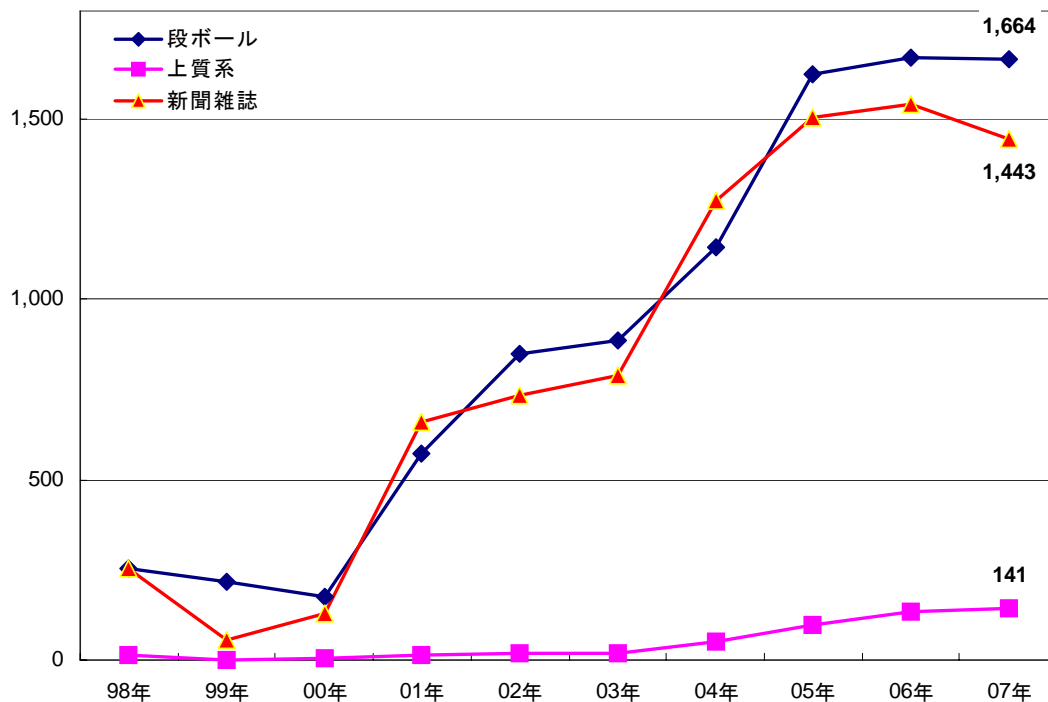


図 1 古紙品種別輸出量の推移

資料：(財)古紙再生促進センター

- 2000 年における古紙回収量 18,332 千トンに占める輸出量は 2.0% (372 千トン) であったが、2007 年における古紙回収量 23,041 千トンに占める輸出量は 16.7% (3,844 千トン) と急増している。これは中国を中心としたアジアの古紙需要の増加に伴うものである
- 2005 年における古紙輸出量は 3,710 千トン（中国向け 3,108 千トン、中国の割合 83.8%。以下同じ）、2006 年 3,887 千トン（3,191 千トン、82.1%）、2007 年 3,844 千トン（3,170 千トン、82.5%）となっており、最近は、中国向けの輸出量の増減がそのまま我が国の古紙輸出量の増減につながっている

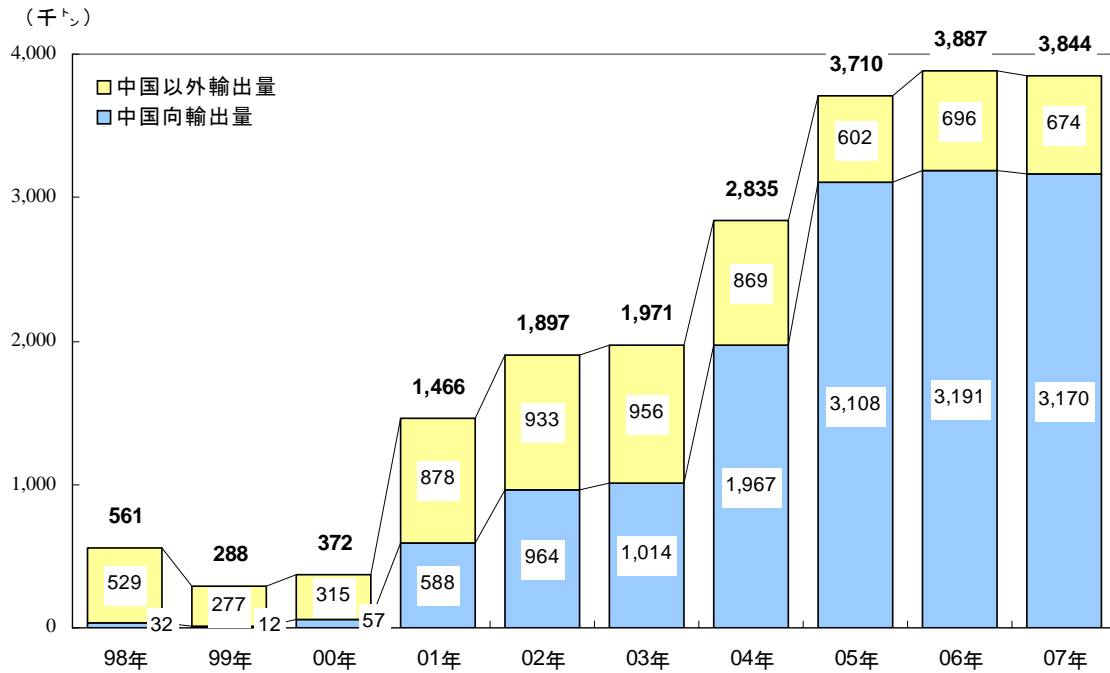


図2 古紙輸出量及び中国向け輸出量の推移

資料：日本貿易月報

- 2005年以降の四半期別の中国向けの全古紙輸出量をみると、2006年第4四半期から2007年第2四半期に90万ト弱であった輸出量が、2007年第3四半期以降は70万ト強となっている(2007年8月以降はすべての月で対前年同月比減少)

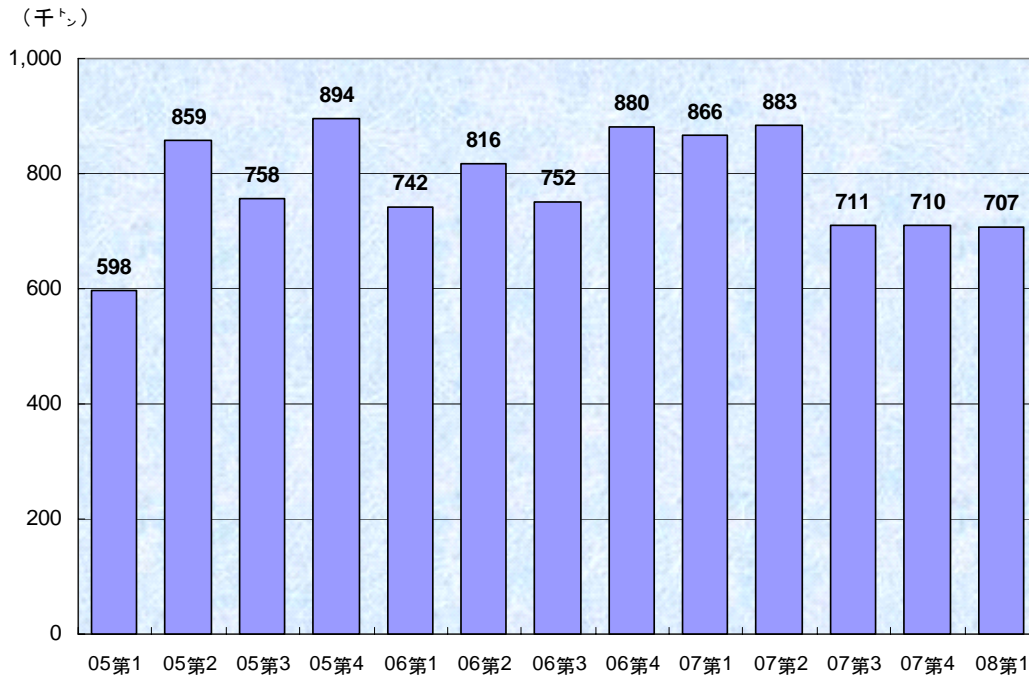


図3 中国向け古紙輸出量の四半期別に推移(2005年以降)

資料：日本貿易月報

- 2005年以降の四半期別の中国向けの新聞古紙輸出量をみると、2005年第4四半期がピークで、2006年中は横ばい状況で推移したが、2007年に入ってから、ほぼ一貫して減少傾向となっている

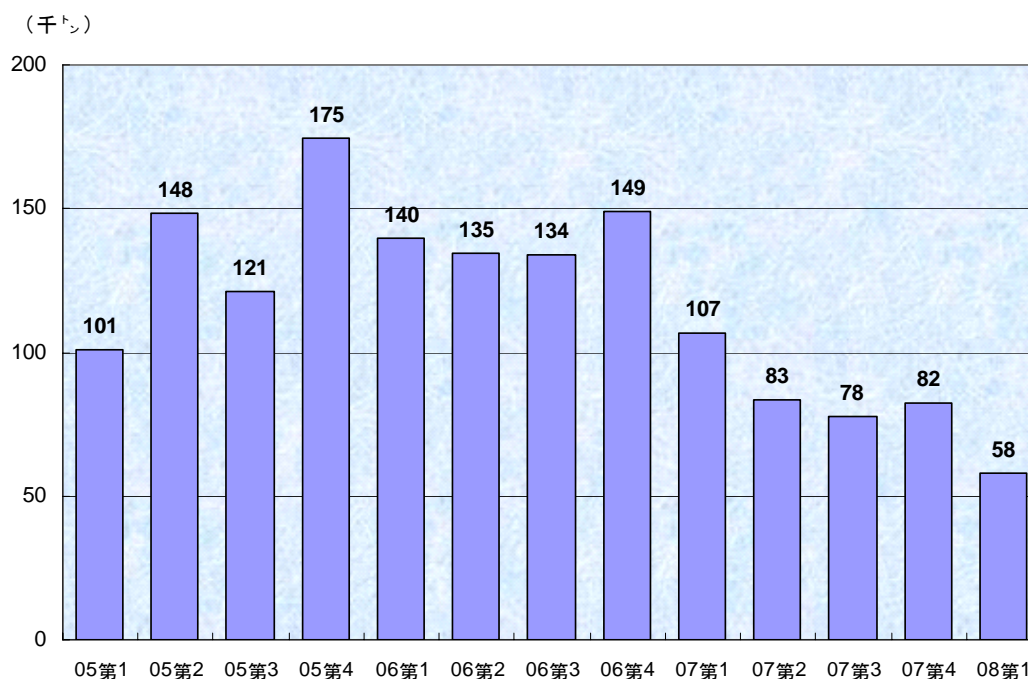


図4 中国向け新聞古紙輸出量の四半期別に推移（2005年以降）

資料：日本貿易月報

2. 中国の古紙輸入量と生産量等

- 2008年1～3月累計の中国における古紙輸入量は、前年同期比1%減の590万ト（古紙輸入通関統計）となっている
- 品種別にみると、段ボールは5.3%増と伸びているが、新聞は8.1%減、その他（雑誌、オフィス古紙、台紙など）が11.4%減である¹。この一因として新聞などについては世界的に需給が逼迫しているためと考えられる
- 2008年1～3月の古紙輸入は、前年同期比で2000年代に入って初めて減少となった。過去、中国では一貫して紙・板紙の消費が生産を上回ってきたが、2006年にその基調に変化がみられ2007年に逆転した
- 日本紙類輸出入組合の調査によると、2007年の中国の紙・板紙生産量は前年比13.1%増の7,350万ト（出所：中国造紙協会）である。消費が7,290万トで、生産が消費を上回ったのは初めてであり、これは中国が紙・板紙の輸出国に転じたということを示している
- 中国は、米国に次ぐ世界第二位の紙・板紙生産国であり、数量にして毎年500万ト以上も紙・板紙の生産が増加し続けているが2008年は1～3月の古紙輸

¹ 数量は減少しているものの、新聞と雑誌価格は上昇しているため伸び率と価格は連動しない

入動向にもみられるように、昨年までの大幅な生産増にブレーキがかかり、生産が減速化してきたとみられる

- 2001年の古紙回収量は930万トンであったが、2007年には2,650万トンへ2.85倍となっており、古紙回収量は今後とも率・量ともに大幅な増加が見込まれる

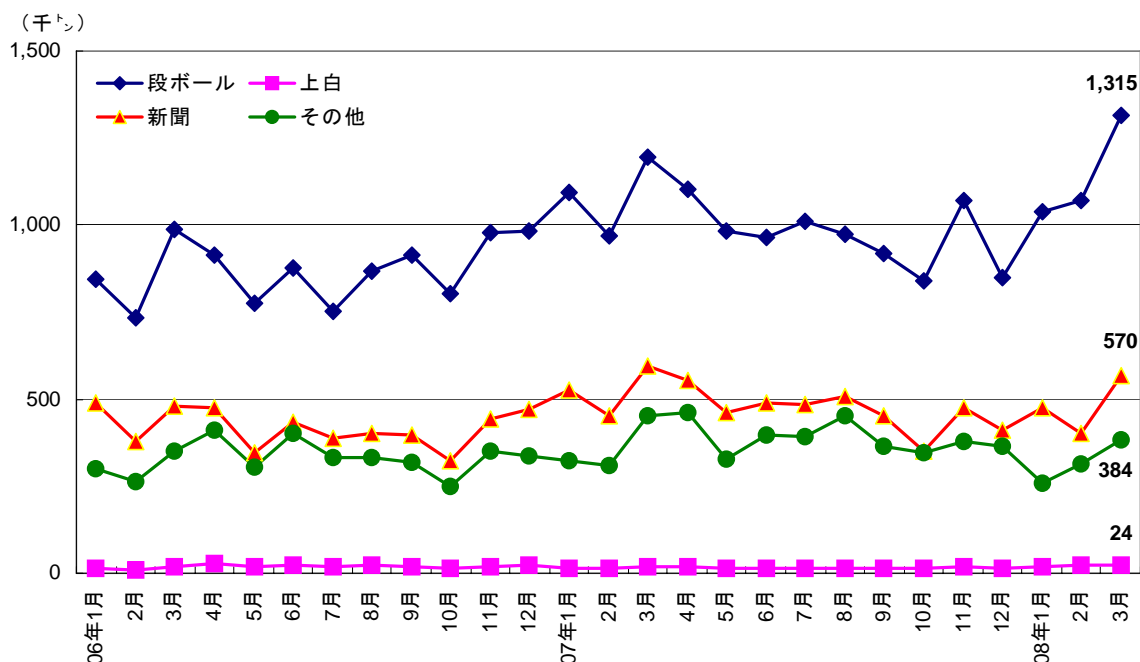


図5 中国の古紙品種別輸入量の推移 (2006年1月以降：月別)

資料：中国造紙協会

3. 古紙価格の推移

- 関東地区における古紙主要3品（段ボール、新聞、雑誌）の価格の直近2年間の推移をみると、輸出・国内のいずれもほぼ2倍に値上がりしている
- 関東地区における2008年3月の国内の実勢相場（レギュラー価格）は、段ボール18円、新聞18円、雑誌15円
- このレギュラー価格にさらに段ボール及び新聞が4円程度、雑誌が2円程度のプレミアム（割増）が付いており、実際の国内取引価格は段ボール22円、新聞22円、雑誌17円
- 古紙輸出価格についてみると、同じく3月時点では段ボール23.4円、新聞23.6円、雑誌22.1円
- 雑誌を除けば実際の国内取引価格と輸出価格はほぼ同等の水準にあることから、昨年秋以降、段ボールと新聞の輸出数量が減少しているものと考えられる
- 2008年6月の関東商組の輸出価格は、段ボール19.6円、新聞25.7円、雑誌21.6円となっており、段ボールは本年3月の最高値から2007年10月の水準

まで下がり、雑誌は本年4月以降横ばいである。一方、新聞は世界的な不足から過去最高値を更新し続けている

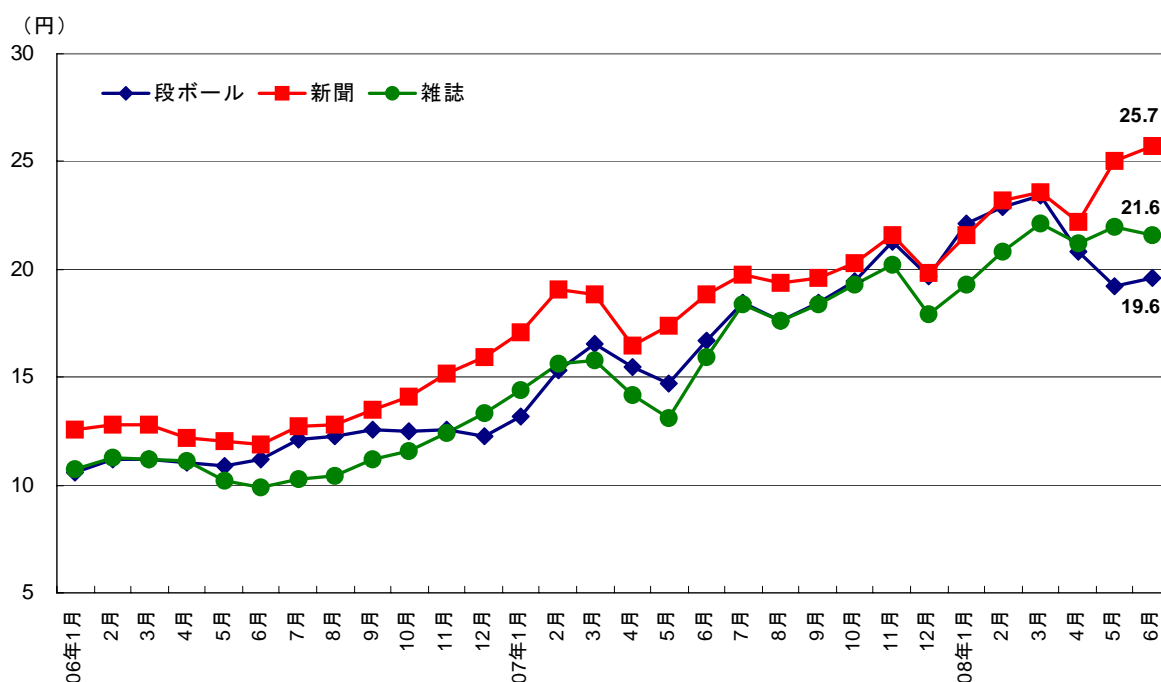


図5 古紙輸出価格の推移 (2006年1月～2008年6月)

資料：関東製紙原料直納商工組合

4. 今後の見込み

(1) 中国への古紙輸出

○ 日本からの中国向け古紙の輸出が横ばいないし減少傾向で推移している要因は中国の買い控えにあると考えられ、今後ともこれまでのような大幅な増加が続くとは考え難い。その理由としては、以下が考えられる²。

- 米国の消費減退による米国向け輸出製品の減少
- 中国産食品の輸出減によるパッケージ需要の後退
- 中国大手製紙会社の株価下落（古紙をはじめ原料価格の値上がりにより2007年12月の中間決算で純利益が市場予測を大幅に下回った）
- 2008年4月から紙が増値税輸出還付制度の特定商品対象から外れたこと
- 外資優遇政策³が撤廃されつつあることと
- 中国国内の古紙回収量が大幅に伸びており、2005年以降は回収量の増加分

² 資料：「古紙ジャーナル」「段ボール時報」「紙之新聞」、日本紙類輸出入組合、業界紙、製紙メーカー等へのヒアリング等による

³ 企業所得税率（法人税）の外資優遇の撤廃・内外統一、2免3減半（黒字化後2年間は企業所得税を全額免除、その後3年間は半減）の優遇措置の撤廃

が輸入量の増加分を大きく上回る状況が続き、国内における古紙回収の仕組みの構築と古紙利用が大きく進んできたこと⁴

- 紙の中のワラ繊維含有量低下など、中国国内の紙の改善による回収古紙繊維品質の向上に伴い、回収古紙が輸入古紙の一部に置き換わり始めていること

(2) 国内の古紙需要

- これまで国内の古紙回収量と古紙消費量の需給の差分が日本からの古紙輸出量となってきたが、特に紙向けの国内消費が大きく伸びるものと見込まれる
 - 2008年1月～3月における古紙消費量は472万トン（2007年同期3.1%増）であり、うち186万トン（2007年同期7.4%増）が紙向けとなっていること
 - 製紙メーカー各社は環境対応策に示されたとおり、DIP設備の増強等により古紙利用の拡大を図ることを約束
- 国内においても製紙メーカーの古紙の調達が高紙価格の上昇につながっているものと考えられ、国内の紙向け消費の増加とあいまって、今後とも相応の価格が維持されるものと見込まれる

以上のように、2001年度以降急激に増加していた中国向け古紙輸出については、頭打ちの状況になるものと見込まれ、一方で、国内における需給のバランスが良化するものと考えられる。

⁴ 都市部を中心として着実に古紙の回収率は上昇しており、2008年は40%台に達する見込み